

臨床実地問題 50 問(解答時間 2 時間)

- 1 右眼球と外眼筋の位置関係の模式図を別図 1 に示す。
正しいのはどれか。
a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 2 56 歳の男性。2 か月前から右眼の視力低下を自覚して来院した。前眼部写真と超音波 B モード像を別図 2A, 2B に示す。
診断に有用な検査はどれか。2 つ選べ。
a 頭部 CT b 血清 IgG4 c 頭部単純 X 線撮影
d ^{123}I -IMP SPECT e 免疫グロブリン遺伝子再構成
- 3 60 歳の男性。右眼の視力低下を訴えて来院した。右眼眼底写真を別図 3 に示す。
必要な検査はどれか。
a EOG b ERG c MRI d OKN e VEP
- 4 正常眼の黄斑部 OCT 像を別図 4 に示す。
視細胞内節外節接合部はどこに相当するか。
a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 5 72 歳の男性。白内障術後の眼内レンズ挿入眼ではほぼ正視眼であるが、網膜疾患のため視力が両眼とも 0.5 に低下している。もう少し矯正視力を上げたいと訴えて来院した。眼鏡とコンタクトレンズの像倍率を別図 5 に示す。
試してみる方法はどれか。
a プラス度数の眼鏡レンズ
b プラス度数のコンタクトレンズ
c プラス度数のコンタクトレンズとプラス度数の眼鏡の同時使用
d プラス度数のコンタクトレンズとマイナス度数の眼鏡の同時使用
e マイナス度数のコンタクトレンズとプラス度数の眼鏡レンズの同時使用
- 6 68 歳の女性。右眼の眼球突出と眼球運動不良を自覚して来院した。眼窩部 MRI と生検組織像とを別図 6A, 6B に示す。
診断はどれか。
a 悪性リンパ腫 b 涙腺多形腺腫 c 眼窩炎性偽腫瘍
d 涙腺腺様嚢胞癌 e サルコイドーシス
- 7 70 歳の女性。左眼内眼角の腫瘤に気づき来院した。左眼前眼部写真と組織像とを別図 7A, 7B に示す。
診断はどれか。
a 基底細胞癌 b 脂漏性角化症 c 乳頭腫 d 扁平上皮癌 e Merkel 細胞癌
- 8 11 歳の男児。3 日前から顔面に皮疹が生じ、疼痛が強くなってきたため来院した。数年前から皮膚科に通院している。顔面写真を別図 8 に示す。
正しいのはどれか。2 つ選べ。
a 接触感染することがある。 b 高率に虹彩毛様体炎を合併する。
c バラシクロビル塩酸塩内服を行う。 d 水痘帯状疱疹ウイルスによるものである。
e 結膜擦過物を用いた蛍光抗体法検査が有用である。

9 2歳の女児。乳児期から左の上眼瞼にふくらみがあり、大きくなってきたため来院した。前眼部写真と組織像とを別図 9A, 9B に示す。

診断はどれか。

- a 霰粒腫 b 神経線維腫 c 皮様囊腫 d 毛細血管腫 e 涙腺多形腺腫

10 72歳の女性。数か月前から左眼の眼瞼のかゆみと鈍痛を自覚して来院した。前眼部写真と組織像を別図 10A, 10B に示す。

診断はどれか。

- a 霰粒腫 b 脂腺癌 c 基底細胞癌 d 扁平上皮癌 e 化膿性肉芽腫

11 65歳の男性。左眼の異物感を主訴に来院した。左眼前眼部写真と組織像とを別図 11A, 11B に示す。

診断はどれか。

- a 悪性黒色腫 b 基底細胞癌 c 原発性後天性メラノーシス d 嚢腫 e 母斑

12 80歳の女性。左眼の眼痛と視力低下を主訴に来院した。左眼前眼部写真を別図 12 に示す。

発症に関与する点眼薬はどれか。2つ選べ。

- a ラタノプロスト b ドルゾラミド塩酸塩
c チモロールマレイン酸塩 d ブロムフェナクナトリウム水和物
e ベタメタゾンリン酸塩エステルナトリウム

13 50歳の男性。幼少時から羞明と異物感を自覚し、徐々に視力低下が進行している。初診時の前眼部写真を別図 13 に示す。

この疾患で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 欧米と比較して日本での頻度は低い。 b 常染色体優性遺伝である。
c *TGFBI* 遺伝子の異常がある。 d 沈着物の同定にコンゴレッド染色を用いる。
e 表層角膜移植の適応となる。

14 57歳の女性。左眼眼底写真とフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図 14A, 14B に示す。

診断はどれか。

- a Coats 病 b 脈絡膜骨腫 c 悪性リンパ腫 d 転移性脈絡膜腫瘍 e 脈絡膜悪性黒色腫

15 20歳の男性。5年前から夜盲を自覚し、最近よく物にぶつかったり転んだりするようになったため来院した。祖父も同様の症状がある。左眼眼底写真とフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図 15A, 15B に示す。

この疾患で誤っているのはどれか。

- a ERG が減弱する。 b 進行すると光覚を失う。 c 求心性視野狭窄を認める。
d X 連鎖性遺伝形式を示す。 e 保因者の眼底は正常である。

16 10歳の男児。昨日サッカー中にボールが右眼に当たり、視力低下を訴えて来院した。

視力は右 0.1(0.2× +1.00 D)。右眼後極部 OCT 像を別図 16 に示す。

現時点での適切な対応はどれか。

- a 経過観察 b 硝子体手術 c レーザー光凝固
d 副腎皮質ステロイド全身投与 e トリアムシロニアセトニドテノン嚢下注射

17 65歳の女性。右眼の視力低下で来院した。視力は右 0.3(矯正不能)。右眼眼底写真とフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図 17A, 17B, 17C に示す。

診断はどれか。

- a 糖尿病網膜症 b 加齢黄斑変性 c 網膜細動脈瘤
d 網膜静脈分枝閉塞症 e 傍中心窩網膜毛細血管拡張症

18 82歳の男性。白内障手術の目的で来院した。視力は右0.6(矯正不能), 左0.5(矯正不能)。眼圧は右15 mmHg, 左17 mmHg。左眼眼底写真を別図18に示す。

適切な診断はどれか。

- a 脈絡膜母斑 b 転移性脈絡膜腫瘍 c 眼トキソプラズマ症
d 脈絡膜悪性黒色腫 e 網膜色素上皮過形成

19 75歳の女性。1週間前から左眼の視野障害を自覚して来院した。左眼眼底写真とOCT像を別図19A, 19Bに示す。糖尿病と高血圧の既往がある。

原因として考えられるのはどれか。

- a 加齢黄斑変性 b 糖尿病網膜症 c 網膜細動脈瘤
d 後部硝子体剥離 e 網膜静脈分枝閉塞症

20 26歳の男性。2週間前から両眼の視力低下と霧視とが出現し軽快しないため来院した。視力は右0.06(0.8×-4.00 D), 左0.04(0.5×-4.50 D)。眼圧は右11 mmHg, 左12 mmHg。右眼前眼部写真と眼底写真を別図20A, 20Bに示す。

診断に必要な検査はどれか。2つ選べ。

- a 聴力検査 b 髄液検査 c HLA検査 d 胸部X線検査 e ツベルクリン反応

21 40歳の女性。数日前からの左眼霧視を主訴に来院した。視力は右1.0(矯正不能), 左0.9(矯正不能)。眼圧は両眼ともに13 mmHg。2年前から左右1回ずつ(計2回)異なる時期に同様の症状を経験している。左眼前房蓄膿は体位による変動を認めない。後眼部に異常所見は認めない。両眼の前眼部写真を別図21A, 21Bに示す。

最も考えられるのはどれか。

- a Behçet病 b Fuchs虹彩異色性虹彩毛様体炎 c Posner-Schlossman症候群
d 急性前部ぶどう膜炎 e 転移性眼内炎

22 65歳の男性。2年前にVogt-小柳-原田病の治療を受け、その後視力は良好であったという。1か月前から左眼視力低下を自覚して来院した。視力は右1.0(矯正不能), 左0.3(矯正不能)。左眼眼底写真とOCT像とを別図22A, 22Bに示す。

適切な治療はどれか。

- a 炭酸脱水酵素阻害薬内服 b 副腎皮質ステロイド大量全身投与
c 副腎皮質ステロイドテノン嚢下注射 d 抗VEGF薬硝子体内注射
e 硝子体手術

23 42歳の女性。両眼の視力障害を訴えて来院した。視力は右0.2(矯正不能), 左0.3(矯正不能)。眼圧は両眼ともに15 mmHg。前眼部と中間透光体に異常は認めない。両眼の眼底写真を別図23A, 23Bに示す。体温36.5℃, 血圧220/120 mmHg。尿タンパク(+), 尿糖(-)。血糖108 mg/dL。直ちに内科へ紹介した。

今後の眼科での適切な対応はどれか。

- a 経過観察 b 格子状光凝固 c 抗VEGF薬硝子体内注射
d 虚血領域への局所的凝固 e 副腎皮質ステロイドテノン嚢下注射

24 生後5日の新生児。修正36週で出生した。分娩に特に異常はなかったが、一時酸素投与を要した。両眼の眼底写真を別図24A, 24Bに示す。

考えられるのはどれか。

- a 色素失調症 b 未熟児網膜症 c 新生児網膜出血
d 家族性滲出性硝子体網膜症 e shaken baby syndrome

25 68 歳の女性。2 か月前から両眼複視が出現し、最近複視の頻度が増加したため来院した。視力は右 0.6(0.8×-0.50 D ⊂ cyl -1.00 D 90°), 左 0.1(0.2×-2.00 D)。頭部 MRI 検査で異常はない。眼位写真と前眼部写真を別図 25A, 25B に示す。

まず行うべき治療はどれか。

- a 右眼外直筋後転術 b 左眼外直筋後転術 c 両眼外直筋後転術
d 右眼白内障手術 e 左眼白内障手術

26 40 歳の男性。左眼で見るとぼやけることを主訴に来院した。19 年前に左眼網膜裂孔に対するレーザー治療を受けた既往がある。視力は右 0.1(1.5×-5.00 D), 左 0.05(0.2×-7.00 D ⊂ cyl -1.00 D 180°)。前眼部写真を別図 26 に示す。眼底は正常であった。

次に行う検査はどれか。

- a 頭部 MRI b 全視野 ERG c ピンホールによる視力検査
d Titmus stereo tests e VEP

27 6 歳の女兒。生後から明るい場所でまぶしがる症状と眼振がある。視力は両眼ともに 0.05(矯正不能)。ERG の結果を別図 27 に示す。

診断はどれか。

- a 網膜色素変性 b 錐体ジストロフィ c 杆体 1 色覚(全色盲)
d オカルト黄斑ジストロフィ e Stargardt-黄色斑眼底

28 30 歳の女性。健診で眼底異常を指摘されて来院した。視力は右 0.5(1.0×-3.50 D), 左 0.6(1.0×-2.50 D)。眼圧は右 14 mmHg, 左 16 mmHg。前眼部と中間透光体に異常はない。右眼眼底写真と自動静的視野検査の結果を別図 28A, 28B に示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 偽乳頭浮腫 b 視神経低形成 c 正常眼圧緑内障
d 傾斜乳頭症候群 e 視神経乳頭コロボーマ

29 17 歳の女子。4 年前から視力の低下を自覚した。そのため試験がうまくできず、引きこもりになった。朝起きたら、突然眼が見えなくなっていたため来院した。視力は両眼ともに光覚なし。両眼の眼底写真と頭部 CT を別図 29A, 29B, 29C に示す。

考えられるのはどれか。

- a 圧迫性視神経症 b 遺伝性視神経症 c 心因性視力障害
d 脱髄性視神経炎 e 栄養障害性視神経症

30 5 歳の女兒。1 か月前から左眼が二重瞼になったのに両親が気づき来院した。視力は右 1.2(矯正不能), 左 0.01(矯正不能)。眼底は右眼に異常はなく、左眼に乳頭浮腫を認める。眼窩 MRI と病理組織像を別図 30A, 30B に示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 視神経膠腫 b 視神経鞘髄膜腫 c 視神経悪性黒色腫
d 視神経転移性腫瘍 e 視神経乳頭ドルーゼン

31 35 歳の女性。1 か月前から左眼の視力低下を自覚し、徐々に進行してきたため来院した。視力は右 1.0(矯正不能), 左 0.08(矯正不能)。対光反射は左眼直接で遅鈍かつ不十分。眼底は右眼に異常はなく、左眼に視神経乳頭の耳側退色を認める。冠状断と軸位断の頭部 MRI を別図 31A, 31B に示す。

考えられるのはどれか。

- a 脳動脈瘤 b 下垂体腺腫 c 頭蓋咽頭腫 d 副鼻腔囊腫 e Rathke 嚢胞

- 41 別図 41 に示す器具を使用するのはどれか。
 a 圧迫隅角検査 b 後発白内障切開 c 周辺部網膜観察
 d 視神経乳頭観察 e 線維柱帯切除術後の切糸
- 42 39 歳の男性。右眼を殴られた直後から視力障害を自覚して来院した。視力は右 0.3(矯正不能)、左 1.5(矯正不能)。右眼眼底写真を別図 42 に示す。
 診断はどれか。
 a 網膜振盪 b 網膜剝離 c 脈絡膜破裂 d 網膜色素上皮裂孔 e 遠達外傷性網膜症
- 43 5 歳の男児。転倒して右眼を強打した。前眼部写真を別図 43 に示す。
 考えられるのはどれか。
 a 眼内炎 b 眼球破裂 c 結膜裂傷 d 眼窩脂肪脱出 e 水疱性角膜症
- 44 22 歳の男性。右眼を殴られて複視と顔面のしびれを自覚して来院した。頭部 CT を別図 44 に示す。
 知覚消失を認めない部位はどれか。
 a 頬部 b 歯肉 c 鼻翼 d 上眼瞼 e 上口唇
- 45 9 歳の男児。両眼の掻痒感と左眼の視力低下を主訴に来院した。左眼前眼部写真を別図 45A, 45B に示す。
 適切な治療はどれか。3 つ選べ。
 a シクロスポリン A 点眼 b タクロリムス水和物点眼 c 副腎皮質ステロイド点眼
 d 治療用コンタクトレンズ装用 e 表層角膜移植術
- 46 65 歳の男性。右眼の水疱性角膜症に対して全層角膜移植を 10 か月前に受けた。3 日前からの視力低下を主訴に来院した。右眼前眼部写真を別図 46 に示す。
 適切な治療はどれか。
 a 角膜表層搔爬 b 抗菌薬類回点眼 c クロルヘキシジン点眼
 d アシクロビル眼軟膏点入 e 副腎皮質ステロイド点眼
- 47 72 歳の男性。両眼複視と左眼眼瞼の腫瘤を主訴に来院した。10 年前に左眼の網膜剝離手術の既往がある。前眼部写真と頭部 MRI とを別図 47A, 47B に示す。
 考えられるのはどれか。
 a 眼瞼腫瘍 b 眼窩腫瘍 c 眼窩内木片異物
 d シリコーンスポンジ脱臼 e バックル材膨隆
- 48 30 歳の男性。近視矯正手術 LASIK を希望して来院した。
 LASIK の適応とならない角膜形状解析の結果は別図 48 のどれか。
 a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 49 68 歳の女性。両眼の充血を主訴に来院した。初診時の前眼部写真を別図 49 に示す。
 適切な治療はどれか。2 つ選べ。
 a 結膜切除術 b 全層角膜移植術 c アシクロビル眼軟膏点入
 d 副腎皮質ステロイド点眼 e ハードコンタクトレンズ装用
- 50 67 歳の男性。2 日前に左眼の視力低下に気づき来院した。視力は右 1.5(矯正不能)、左 0.2(矯正不能)。眼圧は両眼ともに 10 mmHg。両眼に軽度の白内障を認める。左眼眼底写真を別図 50 に示す。
 適切な治療はどれか。
 a 白内障手術 b 網膜光凝固 c 光線力学療法
 d ガスタンポナーデ e トリアムシノロンアセトニドテノン嚢下注射